

まえがき

著者	任 哲
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	研究双書
シリーズ番号	619
雑誌名	中国の都市化 : 拡張, 不安定と管理メカニズム
ページ	[i]-[ii]
発行年	2015
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00042017

まえがき

本書は、アジア経済研究所で2012年度から2年にわたり実施した研究会「中国の都市化：拡張，不安定と管理メカニズム」（代表：天児慧，幹事：任哲）の成果である。この研究会の成果は、『アジ研ワールドトレンド』（2014年10月号）の特集「中国の都市化を考える」にもとりあげられている。そちらも併せて読んで頂ければ幸甚である。

都市化は都市部への人口移動を意味し，それは異なる利害が衝突する過程でもある。急速に進む都市化過程では，通常よりも多様な利害の衝突がより激しく現れ，解決策を見出すのもいっそう難しい。衝突の現れ方，衝突に対処する方法は，その都市および国の政治制度や社会構造などによって異なる。その一方で，衝突が解決されるプロセスは，その都市および国の政治のあり方に大きな影響を与える。

中国の都市化過程で発生する利害の衝突を考察した先行研究の多くは，なぜ衝突がおきたのかをおもに分析し，一方で，衝突と紛争がどのように解決されるかという側面についてはあまり議論されていない。編者は，衝突が発生する原因およびその解決プロセスを考察することで，現代中国の政治のあり方をとらえることができるのではないかと考え，本書では，利害衝突の原因を解明した上で，衝突がどのように解決されるか（あるいは，解決できないのか）にウェイトをおきながら議論を展開した。この試みが成功しているのかどうかについては読者の判断に委ねたい。

研究会では，外部講師を招いて議論を重ねてきた。講師の依頼を快諾し，刺激的な報告をいただいた巖善平教授（同志社大学），王名教授（清華大学），張文魁研究員（國務院發展研究センター），葉裕民教授（中国人民大学）の各先生方にお礼を申し上げたい。中国では，陳剩勇教授と張丙宣准教授（いずれ

も浙江工商大学), 汪錦軍准教授(浙江党校)の各先生方の協力のもと, 本研究会の延長上で浙江省の都市化とガバナンスをテーマとした討論会(2012年, 杭州)を開催することができた。研究成果をまとめる段階では, 2013年度アジア政経学会西日本大会で分科会を設け, メンバーが研究報告を行った。三宅康之教授(関西学院大学)は討論者として登壇され, 報告者に的確なコメントとアドバイスをくださった。渡邊真理子教授(学習院大学), 大塚健司(新領域研究センター主任研究員), 相沢伸広准教授(九州大学)の各氏には, オブザーバーとして研究会に参加していただき, 有益なコメントや示唆をいただくことができた。合わせてお礼を申し上げたい。

本書の草稿段階では所内外の査読者3名から多くの有益なコメントをいただいた。執筆者の多くが日本語を母語としていないことから, 言葉の問題が深刻で, 原稿のとりまとめには通常より長い時間を要した。つたない日本語の文章に, 研究内容から日本語の表現まで丁寧なアドバイスを与えてくださった査読者には, この場を借りてお礼を申し上げたい。また, 翻訳, 編集作業に協力してくれた御手洗大輔(千葉商科大学非常勤講師), 鄭黄燕(東京大学大学院), 宮田れい, 関大徳(ともに早稲田大学大学院)の各氏に, 感謝の意を表したい。

最後に, 本書の企画, 実施, 出版にあたって研究所の諸先輩方からさまざまな支援, 助言をいただいた。重富真一(地域研究センター長), 佐藤ゆり(地域研究センター上席主任調査研究員), 北野浩二(新領域研究センター主任調査研究員), 川上桃子(地域研究センター・東アジア研究グループ長)のみなさんには, 研究会幹事の仕事を十二分に理解してもらい, 最大限にサポートしていただいた。とくに川上桃子氏が, 翻訳原稿の日本語を徹底的に修正してくださり, 出版に向けて大きく前進することができた。また, 原稿の編集過程では出版企画編集課の皆様にも大変お世話になった。ここに感謝の意を表したい。

2015年1月

編者(任哲)